

# 黒船って何？ペリーはいいや？

弊社では毎年、社員旅行があります。一つの班を8名程度で班分けをして、班員で行きたい場所に行きます。私の班は10月16日に伊豆・下田に行ってきました。ペリーが黒船で来航した下田港は、開港から170周年を迎えました。駅前にもお祝いの大きな旗がなびいています。今回は、現地で感じたことをお伝えします。

## 伊

豆急下田駅。平日ということもあり、降り立った日は静かな街並みでした。駅前の土産物店は「黒船」一色。1854年アメリカの東インド艦隊司令官マシュー・ペリーは、日米和親条約締結後に詳細の交渉をするため、下田港へ。交渉の場は了仙寺でした。下田港から了仙寺までペリーの一行が行進した道路はペリーロードと呼ばれています。了仙寺では、これまで授業やテレビで見聞きましたペリーとは違った一面を知ることになりました。「泰平の眠りをさます上喜撰じょうきせんたった四盃で夜も寝られず」という和歌が江戸で流行りました。緑茶の上喜撰四盃とペリーの蒸気船4隻をかけて、日本人が黒船に震えあがったという歌です。ところが下田では交渉役の役人がウイスキーを飲んで酔っ払って楽しそうにしており「私も行きたい」と他の役人も言っていたという記述が残っているほどリラックスモードだったそうです。

下田の町を港内の犬走島から半径7里（約28キロ）以内であれば自由に歩ける遊歩権が条約でアメリカ人に認められました。

これは軍事施設の葦山や東海道には届かない距離です。また、上陸して宿泊することも認めていません。江戸幕府の強気な交渉が見て取れました。なぜ強気に交渉できたのでしょうか。当時の大国であるロシアが日本に侵入を繰り返しており、日本とちよūd良い同盟の国が新興国アメリカだったからです。日米和親条約はアメリカの圧力に屈服したのではなく、ロシア等の大国の脅威から国を守るために、ちよūd良い国と条約を結んだ話なのです。

## 吉

田松陰が金子重輔と共に黒船乗船を試みた「踏海の企」の地が弁天島です。その地から下田の海を見ると青空で風心地よい風景でした。日本を何とかしようとした20代が、命をかけて小舟で外国の船に向かって行ったのです。私も20代の頃に、その勇気と行動を想像して胸が熱くなったことを思い出しました。ペリーは吉田松陰の想いに感動したのですが、日本と修好条約を結んだばかりだったため、ここぞじれさせてはいけないと、船を用意し

て丁重に送り返しました。その際に、しばらく下田にいたので幕府の許可をもらってくれば連れていけることを伝えているのです。投獄された吉田松陰が極刑にならないことも願っていました。

お昼に金目鯛の刺身定食をいただき、夜は地元の居酒屋で下田港の食事を楽しみながら、私は社員たちと「ペリーは威張っている嫌なやつと思っていたけれど、意外といいやつだったんだね。下田の町も黒船のおかげで170年もの間、観光地として栄えていることも地方活性のためにもいいことだね」と語り合いました。

これまで様々な角度から歴史を学んできましたが、やはり現地に行くことで新しいことに会えると思えました。皆さんも本やネットで知った気にならず、謙虚な姿勢で現地に足を運びましょう。下田の旅では吉田松陰が黒船に向かって行った地を体感したことで、何かを為そうとするときの一步踏み出す勇気をいただくことができました。私の人生もまだまだ挑戦の連続です。歴史に学び、未来を創っていきます。



(株)キャリアコンサルティング 代表取締役社長 室舘 勲  
MURODATE Isao

2003年株式会社キャリアコンサルティングを設立。プータン王国国立マネジメント大学など講演実績多数。全国社内木鶏経営者会 副会長。ミス・ワールド・ジャパン講師・審査員。著書に「夢を見て 夢を叶えて 夢になる」(致知出版社)、「まずは上司を勝たせなさい」(講談社)、「応援される人」になりなさい」(ワック)がある。